

学校関係者評価報告書

<実施日:2024年3月11日>

学校法人横浜 YMCA

YMCA 健康福祉専門学校

YMCA 健康福祉専門学校 学校関係者評価報告について

YMCA 健康福祉専門学校では、全ての教育内容や通常の業務が、運営母体となる YMCA 活動に基づき行われているかについて、現状を点検して、さらなる改善及び向上を図っていくことを目的に、2007 年度より全教職員による自己点検「YMCA 専門学校運営ガイドライン評価アンケート」を実施し、自らの立ち振舞いを振り返る機会としています。

また、2013 年度より、卒業生や本校に関係の深い企業、福祉施設の方々を中心に、広くご意見を伺い、今後の教育活動や学校運営に反映させることを目的に、「学校関係者評価委員会」を発足し、定期的な意見交換・情報収集の場として運営しています。今年度は7月15日及び11月25日に実施した委員会において、たくさんの貴重なご意見やご指導をいただき心より感謝申し上げます。改めて、多くの方の意見を聞くことは、学校評価の重要性と、YMCA の運営する専門学校としての使命を再認識した次第です。

今後とも、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参りますので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2024 年 3 月 11 日

学校法人横浜 YMCA

YMCA 健康福祉専門学校

校長 平岡 守

1. 「学校関係者評価」の実施方法

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に加え、項目を追加した。これは昨年度の学校関係者評価委員会より「横浜 YMCA の活動にもとづき運営される YMCA 専門学校は、学校教育機関であると同時にボランティア団体や国際交流団体、社会教育活動団体の側面が職能教育や人材養成に生かされることが特長である。それらを踏まえた評価項目の設定をふやすことにより、地域で活躍する人材養成を担う学校づくりのより一層の指針となるのではないか」というご意見といただいたことによる。追加した細目は、本校にて 2007 年より実施している自己点検「YMCA 専門学校運営ガイドライン評価アンケート」より抽出した。

今年度も「2015 年度自己点検評価表」について、本校に関係の深い 3 名の委員(委員一覧表)に評価していただいた。各委員には、前記の自己点検評価表及び学校運営に関連する資料等を配布し、意見等を聴取した。

各委員からの評価については、本校校長が承り、その内容について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

委員	施設・企業名	役職	備考
湯浅 房子	社会福祉法人新考会 キンダーガーデンこぼと	園長	
鈴木 真	まこじろう福祉事務所	執行取締役	
小島 雄登	特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会	職員	

(事務局)

平岡 守	YMCA 健康福祉専門学校	校長
大塚 英彦	YMCA 健康福祉専門学校	事務長

3. 2023年度自己評価の概要

●学校の教育目標及び本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・ イエスキリストの生き方にならい、弱くされている人に寄り添いながら人材養成をしていきたいと考えている。
- ・ 18歳人口の減少、大学の全入など学生はなかなか集まらない現状ではあるが、可能な限りの工夫をしながら学生を集め、地域の中で地域に必要とされる養成をしたい。昨今の学生たちを取り巻く課題は多様化しており、学習面だけではなく経済的な困難を抱える学生も多くおり、支援策を検討したい。
- ・ 2016年度より続く学生数の減少により収入は減少している。日本語学科での留学生確保、介護福祉科での留学生受け入れなど時代に合わせた教育・人材養成に取り組むつつ、本校ならではの価値を打ち出しながら学生募集にも取り組んでいく。

●評価項目の達成及び取組状況

①教育理念・目標・YMCA活動

学校設立当初より、基準を守りつつ運営をしてきているので、ゆるぎなく評価できると考えている。

②学校運営

縦割りの運営とならないよう、風通しの良い環境をめざしている。小さな事柄でも情報共有できる仕組みづくりに取り組んでいる。

③教育活動

厚生労働省指定のカリキュラムはきちんと守られている。

学力の低い学生が増えていることから、読み書きや自己表現の苦手な学生への課題解決のため

の授業を行い、基礎学力の向上に取り組んでいる。

また留学生や外国につながる学生に対しての日本語補講なども実施している。

④学修成果

退学者はさほど多くはない。就職率も安定しており、就職後はたらきの中で、学校行事などでの体験も評価をされている。

⑤学生支援

半期に一度、保護者会を実施している。学校の教育理念をお伝えするほか、学生の学内での様子を伝えつつ、一人ひとりの学生支援としての家庭との連携を推し進めている。

⑥教育環境

開校から34年が経過し、様々な個所で老朽化が見受けられている。2018年度は会館内すべての空調設備の更新に着手した。

⑦学生の受け入れ募集

2018年度の新入生は、介護福祉科26名(定員40名)。広報費は抑えられているが近年で最も学生数の落ち込む年度となった。

⑧財務

⑨法令等の遵守

⑩社会貢献

問題ないと考えている。

⑪国際交流(参考)

介護福祉科では留学生の受け入れが始まり、学生たちが差別・偏見なく異文化理解できるよう、留学生とのかかわりの機会も増やしている。また海外ボランティアの機会には、OB会の支援も受けつつ学生が参加している。

4. 委員による討議・意見交換

自己点検結果及び、学校に対する要望や職業現場での課題を含め、学校運営のあり方等について、次のような意見をいただいた。

■学生の質の多様化について

- ・ 介護福祉科では留学生の受け入れが始まった。人材不測の続く職業現場としては、課題は抱えつつも支援していきたいと考えている。今後も実習や就職など、折りに触れて、職業現場との情報交換をするべきである。
- ・ あらゆる人たちを受け入れるところは YMCA の良さである。卒業生としても、いろいろな人がいて互いを認め合える環境を YMCA は整えてほしいと思う。新しく始まった児童発達支援事業で学生たちが障害児とかかわる機会が増えたことは、学生たちの視野も広がり、学びも広がることと期待したい。

- ・ 介護福祉科の留学生においては日本語力が十分ではない学生を受け入れている。学生たちには日本語講師の協力を得るなどして、補講を実施したり、授業の予習や復習に担任がかかわるなどの工夫をしている。支援の方法が多様化していることで、一般学生の満足度が下がることがないように、授業にも配慮が必要と考えている。

■専門職の養成機関として

- ・ 学校として、教職員の力量に依らず、できることとできないことの線引きをし、必要に応じて専門機関と連携することの重要性も感じている。
- ・ 今後進んでいく多職種連携の意義や役割を学ぶ機会として、相模原看護専門学校と合同でのケース検討を行う授業を実施した。自分自身の学びの専門性について学生たちも考える機会を増やしていきたい。

■まとめ

学校としての究極の目標は、多くのミッション系学校と同じようにキリスト教的価値観を伝えていくことにある。分け隔てなくあらゆる人の命を大切にすること、一人ひとりを大切にする社会の担い手をつくること、人を受け入れること、違いを受け入れること。このことができればYMCAにつながってくれた価値を感じられると思う。学生たちに今すぐに伝わらなくても、行動や考えが今すぐに変わらなくても、10年後には思い出すかもしれない。伝え続けることが大切と思うのであきらめないで伝え続けていきたい。卒業生や地域のみなさまにも是非お手伝いをお願いしたい。

6. 閉会

各委員よりいただいた貴重な意見を今後の課題として、今後検討を重ね、YMCAの専門学校としての人材養成を進めていきたい。学生一人ひとりが自らのキャリアを考え、創ることができるように、現任者から現場ではたらしきを聞くことができる機会を多くもつなど、卒業生たちの協力を得ながら人材育成につなげていくことを、今後も私たちの課題・テーマとして、実施に向けた方策を検討していきたい。

カリキュラム検討や職業現場との連携について検討を重ねている教育課程編成委員会における意見、提案などとあわせて、より良い、より開かれた学校づくりに活かしていきたい。

以上